

発行者／公益財団法人SOMPO環境財団 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL：03-3349-4614 FAX：03-3348-8140
URL：https://www.sompo-ef.org/ BLOG：http://sjnkef.edoblog.net/

1 2024年度環境保全プロジェクト助成先を取材

SOMPO環境財団では、全国で行われている環境保全プロジェクトがより充実したものとなるよう、「環境保全プロジェクト助成」を実施しています。

2024年度も多くのご応募をいただいた中から、12月の認定委員会による選考を経て10件の助成先が決定しました。

今回は、助成先に選定された一般社団法人えねこや理事の菅野千文さんに、活動の内容や助成金の使途などをお聞きしました。

●貴団体はどのような団体ですか？ (活動地域や活動目的など)

えねこや（＝エネルギーの小屋）は、断熱や省エネの工夫を施し、再エネ100%で電力自立する小さな建築のことです。2016年の法人設立以来、暮らしの中のエネルギーを自分ごとにし、我慢しない脱炭素な暮らしを目指して、多摩地域を中心に体験型のワークショップ等の啓発活動を行っています。2019年以降は、「移動式えねこや」（トレーラーハウス）で各地に出向いてより多くの人にアウトリーチできるようになり、活動範囲を広げています。



移動式えねこや

●現在はどういった活動に取り組んでいますか？



出前授業の様子

「移動式えねこや」を使った小学校での出張授業を通して、未来世代の子どもたちを対象とした体験型のワークショップに特に力を入れています。子どもたちが、再エネや省エネ・地産地消の素材など地球に優しい暮らしを体感しながら、再エネ100%の暮らしが実現可能であることを理解し、自分

で考えて行動できる人材となるための種まきになればと考えています。また断熱内窓DIYワークショップなど、大人向けの実践的な講座にも取り組んでいます。

●当財団の助成金はどのように活用される予定ですか？

頂いた助成金は、24年9月に多摩市の小学校5校（7日間）で6年生を対象に行った出張授業における学生スタッフへの謝礼として使わせていただきます。1クラス90分の授業を牽引する若手の活躍は必要不可欠で、今年の授業には延べ30名の大学生が参加しました。気候変動の当事者として、小学6年生との交流からシナジーが生まれ、双方に良い影響を与えています。学生が負担感なく継続的に活動に参加できるようご支援いただいたことに感謝いたします。



スタッフの皆さん

5年間にわたるトレーラーハウスでの出張授業の着実なお取組み、また小学生への環境教育を行いながら、大学生が環境活動を実践する場を提供している点が認定委員会でも高い評価を受けていました。今後の更なるプロジェクトの発展に期待しています。菅野さん、インタビューへのご協力ありがとうございました！

2 インドネシア版CSOラーニング制度第6期の修了式を開催しました

環境財団ではCSOラーニング制度を海外展開した取組みとして、大学生・大学院生を現地のNGOにインターン派遣する、「NGO Learning Internship Program」をインドネシアのジャカルタ近郊で実施しています。10月22日、第6期生となる24名の修了式をAYANA Midplaza Jakartaで開催しました。

式典には財団も日本から参加し、中村専務理事から修了生に祝辞を述べた後、修了証を授与しました。また、来賓としてインドネシア



修了証授与

環境林業省のJo局長、Sompo Insurance IndonesiaのEric CEO、受入先NGOの代表者らに出席いただき、8か月の活動を終えた学生たちを激励していただきました。

第6期の活動を終え、制度の修了生は127名となりました。インドネシア全体の人口から見ればわずかな人数ですが、来賓の方々からは修了生に「ホットスポット」になってほしい、というメッセージが送られていたのが印象的でした。数は少なくとも、修了生それぞれが自身の熱意を周囲の仲間に語りそれが伝播していけば、その影響は乗算的に広がっていきます。財団としても修了生のネットワークを強化し、その広がりを支援したいと決意を新たにしました。

第7期も前年度と同じく25名の学生が11のNGOで活動を開始する予定です。環境財団ではこの制度を通じて、今後も日本とインドネシア両国の環境人材育成に取り組んでいきます。



集合写真

新宿区「みどりの小道」環境日記コンテストへの協賛

SOMPO環境財団では、東京都新宿区の小学生を対象とした「みどりの小道」環境日記コンテストに協賛しています。このコンテストは、区内の小学生が夏休みに5週間以上にわたり、「環境」をテーマとした日記を書くことを通じ、地球環境について考え、行動をしようことを目指す、環境教育プロジェクトです。2024年度は区内29校のうち23校から900冊を超える応募がありました。

その中から、楽しみながら、環境問題に取り組んだ様子を記載している作品を「SOMPO環境財団わくわくエコの環賞」として、5名表彰しており、2024年12月21日にエコギャラリー新宿にて表彰式を開催しました。

作品は、気候変動をはじめエネルギー問題や生物多様性、宇宙ゴミなどといった多岐にわたる課題を取り上げ、学びを深めることや家族や友達を巻き込んだ取り組み、イラストや写真、色鉛筆を使用した記載方法の工夫など、どれもレベルの高い作品ばかりで選考は大変でした。



表彰状授与の様子



受賞者集合写真

表彰式では中村専務理事から講評とともに、表彰状および副賞を授与し、受賞者本人はもとよりご家族も一緒に受賞を喜んでいました。

受賞者からは「日記の記載を通じ環境問題はすべてつながっていることがわかった」「楽しく実行することを意識して家族や友達と一緒に取り組んだ」などのコメントがありました。

引き続き、本コンテストの協賛を通じ、次世代を担う小学生への人材育成に貢献をしていきます。

2024年度市民のための環境公開講座を開催しました

SOMPO環境財団は、市民の皆さまとともに環境問題を理解し、それぞれの立場で具体的に行動することを目指しています。32年目を迎えた2024年度は、7月3日「気候変動と私たちの健康」というタイトルで、東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学教授の橋爪真弘先生にご講演いただいた第1回を皮切りに、特別講座を含む全10回の連続講座を開催し、大変ご好評をいただきました。



NPO法人森の生活
代表理事 麻生翼氏

全体のテーマを「Re-Think サステナビリティ～“ゆたかな”暮らしの9つのヒント～」とし、生物多様性、海洋ゴミ問題、大規模自然災害、脱炭素社会のこれから、といった様々な切り口から環境問題について学びました。

2024年度は延べ13,000名を超す皆さまにお申込みをいただき、受講後のアンケートでは、「気候変動と健康との関係性については今まで考えたことがなく、新しい視点で環境問題を考えるきっかけになり有意義だった。」や、「ボランティア、社会正義は長続きしない、自分なりの付加価値をつけて継続していくことが大事ということに共感した。」等、多数のコメントをいただきました。

なお、講座のダイジェスト記事をSOMPO環境財団のホームページにて公開しております。ぜひどうぞご覧ください。



慶應義塾大学環境情報学部
学部長・教授 一ノ瀬友博氏

講座のダイジェスト記事はこちら



新しい公益法人制度対話フォーラムに登壇しました

2025年4月から施行される「新しい公益法人制度」の認知・理解向上のため、2024年12月19日に内閣府が主催し、「新しい公益法人制度対話フォーラム」が開催されました。

SOMPO環境財団は同フォーラムに企業財団の代表としてパネルディスカッションに登壇をしました。

当日はおよそ300名が参加をし、三原内閣府特命担当大臣のご挨拶ののち、公益等認定委員会事務局の高角様から制度改革の概要について基調講演が行われ、その後、公益法人5団体が登壇をし、パネルディスカッションを行いました。当財団からは、中村専務理事が参加をし、公益法人の担う役割や今後の可能性などについて



三原内閣府特命担当大臣挨拶
(内閣府提供)

活発な意見交換を行いました。

今後も社会の変化にあわせた柔軟な事業運営やガバナンスの強化等を行い、制度改革に則した財団運営に取り組んでまいります。



パネルディスカッションの様子(内閣府提供)

※【連載】CSOラーニング制度派遣先インタビューはお休みいたします。